

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	16	学 校 名	静岡県立小山高等学校 定時制の課程	校 長 名	櫻井 教文
------	----	-------	----------------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

北駿地区の普通高校として、主体的な活動や多様な人々との協働による教育活動を通じて、校訓「自尊」のもと、「いかなる時代にもたくましく生き抜ける人間」の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
“いかなる時代にもたくましく生き抜く”ため、以下の3つの力を育成します。 1. 自らの心を磨く力 2. 自らの学びを高める力 3. 自らの進路を切り拓く力	次のような教育活動を行います。 1. 日々の学習活動や行事参加を通じ、協調性やコミュニケーション能力の向上を図る教育活動 2. 授業・学習を通じ、学ぶ楽しさを実感するとともに、自己肯定感を涵養する教育活動 3. 4年間で主体的に進路選択を行えるよう、意識醸成に努める教育活動	次のような生徒を求めます。 1. 自らを律し、規範を遵守し、他者との協調性やコミュニケーションを大切にする生徒 2. 日々の学習を大切にするとともに、各種検定取得に積極的に取り組む生徒 3. 社会にとって有為な存在となることを意識し、主体的に進路選択を行う生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 自立の心を持った生徒を育てる生活指導とすべてに優先する安心安全な学校作り
- イ 基礎基本の定着と自ら学ぶ姿勢の育成
- ウ 勤労観と自ら進路を切り拓く力の育成
- エ 家庭・職場・地域から理解及び協力を得られる情報発信
- オ 組織力を高め、学校全体として教育に当たる体制の推進
- カ ワーク・ライフ・バランスを意識した業務の推進

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	自立の心を持った生徒を育てる生活指導とすべてに優先する安心安全な学校作り (ア) 挨拶の励行「挨拶は、人に好かれる魔法の言葉」 (イ) 積極的な交通指導と校内巡視 (ウ) 生徒会活動の活性化 (エ) 学校生活のルール・マナーを徹底 (オ) 施設、設備の安全管理の徹底	・職員による登下校時の交通指導、校内外の巡視による規範意識向上と盗難防止に努める。 ・主体的な生徒会活動の推進。生活マナー改善、交通安全について生徒会委員会による啓発活動を実施する。 ・巡視活動や生活アンケートを通して、生徒動向をきめ細かく把握する。 ・情報交換会により、職員間の情報共有を図る。	・登下校を含む学校生活における重大事故発生0件 ・いじめ、恐喝、窃盗の発生0件 ・「授業・生活アンケート」の主体的行動、生活態度の項目における肯定的自己評価90%以上 ・ソーシャルメディア利用に関する注意喚起（各学期1回以上）	生徒（事務）

様式第 1 号

イ	基礎基本の定着と自ら学ぶ姿勢の育成 (ア) 生徒一人一人の学力の把握に努め、基礎基本の定着、問題解決を図る姿勢の育成 (イ) 検定取得を推奨 (ウ) 学習支援員等による授業外での学習支援 (エ) 生涯学習の基礎作り	・授業改善のための結果のフィードバックを行う。 ・検定取得のための学習機会の設定と受験対策を行う。 ・定期試験に向けて、学習支援員による苦手教科の復習支援を実施する。 ・「基礎力診断テスト」の事前学習の時間を設ける。	・授業アンケート評価 10 項目全てで肯定的評価 95%以上 ・生徒全員が 2 種以上の検定に受験	教務
ウ	勤労観と自ら進路を切り拓く力の育成 (ア) ハローワークや地域の関係機関と連携し、キャリア教育を充実 (イ) 地域の人材等を活用し、地域の産業や課題について学ぶ機会を充実 (ウ) 進路行事を 4 年計画で再編成	・ハローワークと連携し勤労意識の向上を図る。 ・外部機関と連携し、生徒の進路意識及びコミュニケーションスキル、ソーシャルスキルを高めるための進路行事を行う。 ・各学年で進路指導計画に沿った指導を行う。	・進路決定率 100% ・進路行事を年間 3 回以上実施	進路
エ	家庭・職場・地域から理解、協力を得られる情報発信 (ア) 教育活動の内容や行事についてホームページ（以降、HP）を活用しての情報発信	・HP 二次元コードを学校案内等広報物に掲載する。	・HP 毎月の更新 1 回以上	HP 管理 教頭
オ	組織力を高め、学校全体として教育に当たる体制の推進 (ア) 組織力を高めるための充実した校内研修の計画立案 (イ) 分かりやすい授業のためのユニバーサルデザインの考え方や ICT の活用方法の共有	・定期的な職員研修を通じて、職員が課題と目標を共有し、共通認識を持って業務に当たる。 ・定期的な「情報交換会」や日常的な対話での情報共有を推進する。	・研修内容は適切だったか、意思の共有ができたかについて職員アンケートを行い、肯定的評価 90%以上	研修
カ	ワーク・ライフ・バランスを意識した業務の推進 (ア) 教材研究や情報交換の時間の確保 (イ) 休暇取得の推奨 (ウ) 自己研鑽や心身のリフレッシュによる教育効果の向上	・各分掌の会議資料等の簡略化とペーパーレス化を図る。資料のデータ化を進める。 ・長期休業中の休暇取得を促進する。	・夏季休業中の年休取得 5 日以上、年間 10 日以上 ・「生徒と向き合う時間」、「指導準備時間」が増えていると感じる教員の割合 80%以上	教頭

（記入上の留意点）

具体的な重点項目が外部の方にもわかりやすいよう、工夫して記載すること。